

「子ども発達支援センター・さんだ」支援  
ストラディヴァリウス チャリティー・コンサート

# パブロ・フェランデス チェロ・リサイタル



2015年11月27日(金)  
三田市総合文化センター  
郷の音ホール 大ホール

公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団  
社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会  
理事長 片岡 寛

ストラディヴァリウス チャリティー・コンサートにお越しいただき、ありがとうございます。

1968年より障害のある子どもや家庭の幸せを願って、ボランティア活動から民間団体をつくり、公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団として法律や制度の枠を超えた福祉や療育の活動を行ってきました。1980年に制度に基づく福祉施設を運営するため、社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会を設立して、新しいアイデアを取り入れた福祉施設を展開しています。

この2つの団体が、特別な支援を必要とする子どもの療育・福祉活動を兵庫県三田で行っています。就学前の子どもの発達を支援する三田市の「かるがも園」「すくすく教室」を社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会運営し、隣接して公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団が「子ども発達支援センター・さんだ」として、就学時の子どもや特別な支援を必要とする子どもに、療育訓練、スポーツ教室、社会生活力プログラム、保護者や専門職員の研修会などを民間福祉活動として行っております。

日本音楽財団の特別協力による「ストラディヴァリウス チャリティー・コンサート」も、今回で3回目を迎えました。チケットの売上金は、すべて「子ども発達支援センター・さんだ」の活動に使用させていただきます。

皆さまのご協力に感謝申し上げます。

## 子ども発達支援センター・さんだ かるがも園・すくすく教室



子どもの発達支援のための総合的で先駆的な療育活動や研修活動などをすすめています。

### 一人ひとりの大切な発達を援助するために

- 子ども発達支援センター・さんだ
  - 聴覚言語訓練
  - 作業療法、理学療法
  - シェルボン・ムーブメント・セラピー
  - 感覚統合療法
  - 視機能・視知覚訓練
  - 各種教室、研修会などの開催
- かるがも園・すくすく教室

子どもたちには、もって生まれたすばらしい能力があります。能力を十分に発揮して自信をもって大きく育つように個々のお子さまにあったプログラムを提供します。

子どもの発達過程でのさまざまな問題や心配に、いつでも「子ども発達支援センター・さんだ」は相談にのります。

このコンサートのチケットの売り上げのすべては、「子ども発達支援センター・さんだ」の子どもと家庭の活動に使われます。

「子ども発達支援センター・さんだ」兵庫県三田市井ノ草808番地  
Tel (079) 568-1955 Fax (079) 560-0595 <http://www.sanda-kodomo.jp>

# **PROGRAM**

**エンリケ・グラナドス**

**Enrique Granados (1867-1916)**

スペイン舞曲集 作品37 第5番「アンダルーサ」  
Danza española Op.37 No.5 “Andaluza”

\*

**ガブリエル・フォーレ**

**Gabriel Fauré (1845-1924)**

夢のあとに  
Après un rêve

\*

**カミーユ・サン＝サーンス**

**Camille Saint-Saëns (1835-1921)**

白鳥  
Le cygne

\*

**ヨハネス・ブラームス**

**Johannes Brahms (1833-1897)**

チェロ・ソナタ 第1番 ホ短調 作品38  
Cello Sonata No.1 in E minor, Op.38

I. Allegro non troppo  
II. Allegretto quasi Menuetto  
III. Allegro

\*

**ニコロ・パガニーニ**

**Niccolò Paganini (1782-1840)**

「モーゼ」の主題による変奏曲  
Variations on one string on Rossini's “Moses”

## **PROGRAM NOTE**

### **エンリケ・グラナドス**

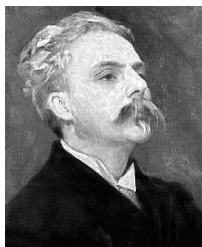
(1867-1916)

スペイン舞曲集 作品37 第5番  
「アンダルーサ」



グラナドスはスペインを代表するピアニスト、作曲家である。幼少よりピアノを始め、20代の頃にはパリでも研鑽を積んだ。第一次世界大戦の最中、作曲家として成功しはじめていたグラナドスは、ウィルソン大統領の依頼によりホワイトハウスでピアノ・リサイタルを行うため米国に渡ったが、その帰路で乗っていた船が英仏海峡でドイツ海軍の攻撃を受けてしまう。彼は救命ボートに救われたが、溺れている妻を発見し、助けに飛び込んだため二人とも亡くなってしまった。

「スペイン舞曲集」は、ピアノのために作曲された全12曲の舞曲集。同世代のフランスの作曲家のマスネやサン＝サーンスらに絶賛され、スペイン音楽の新しい方向性を示した傑作といわれている。この第5番「アンダルーサ」は、管弦楽、ギター、チェロなどの編曲版があり、「スペイン舞曲集」の中で最もよく演奏されている。



### **ガブリエル・フォーレ**

(1845-1924)

夢のあとに

フォーレはフランスの作曲家で、ピアノ曲をはじめとする室内楽曲や歌曲を多く作曲した。パリの学校でピアノと作曲をサン＝サーンスに学び、その親交はサン＝サーンスが亡くなるまで続いた。フォーレをはじめ、フランス近代音楽の生みの親といわれるセザール・フランクやクロード・ドビュッシーの作品は、サン＝サーンスがフランスの音楽と新進作曲家のために設立した「国民音楽協会」を通じて世に送り出された。

「夢のあとに」は、歌曲として作曲されたが、現在ではヴァイオリン版や偉大なスペインのチェリスト、パブロ・カザルス

などが編曲したチェロ版も有名である。イタリアのトスカーナ地方に伝わる愛の詩のフランス語訳が付けられている。詩の中では、夢で光り輝く美しい女性に出会った主人公が、夢から覚めて現実に引き戻された悲痛の叫びが描かれている。



## カミーユ・サン＝サーンス

(1835-1921)

### 白鳥

サン＝サーンスは、フランスの作曲家であり、オルガニスト、ピアニストでもある。2歳でピアノを弾きはじめ、3歳で最初の曲を作曲し、幼い頃からモーツァルトに並ぶ神童と評された。音楽の他にも詩や絵画、天文学、数学などでも才能を示した。当時フランスでは、聖歌から発展したオペラ音楽が主流で、楽器のみで演奏される器楽曲はドイツの音楽が聴かれていた。そのため、サン＝サーンスはフランス器楽音楽の普及のために「国民音楽協会」を設立し、ドビュッシーやモーリス・ラヴェルが活躍するフランス近代音楽の基礎を築いた。

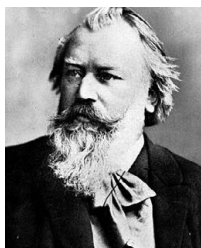
「白鳥」は、全14曲からなる組曲「動物の謝肉祭」の第13曲目である。白鳥の他、ライオン、亀、象、カンガルーなど様々な動物をテーマにしており、子ども向け楽曲の代表作としても人気が高い。また、「白鳥」と並び有名な「水族館」は、映画やCMなどで使用される機会が多い。「白鳥」は、この組曲の中でサン＝サーンスの生前に出版された唯一の曲で、オリジナルはチェロとピアノ2台で演奏される。

## ヨハネス・ブラームス

(1833-1897)

### チェロ・ソナタ 第1番 ホ短調 作品38

ブラームスはJ.S.バッハ、ベートーヴェンに次ぐドイツの偉大な作曲家である。また、現在ではモーツァルト、ベートーヴェンに並ぶ程人気のある作曲家である。ブラームスが生きた19世紀は、音楽史上ではロマン派とされ、ソナタ形式にこだわらず、構成やリズムも自由かつ大胆で複雑なものが好まれ



る時代だった。しかし、ブラームスはロマン派の特徴を示しながらも保守的で、ベートーヴェンが大成功させた古典派音楽形式を継承した作曲家だった。

ブラームスは生涯で2曲のチェロ・ソナタをそれぞれ32歳と53歳の時に残している。第2番に比べ、第1番はチェロの重低音を活かした哀愁漂う作品で、ブラームスが尊敬していたJ.S.バッハやベートーヴェンの作品に通じるところがある。幼い頃からピアノに精通しピアニストとしても活躍していたため、ピアノの旋律の美しさも聴きどころである。



## ニコロ・パガニーニ

(1782-1840)

### 「モーゼ」の主題による変奏曲

パガニーニは、イタリアのヴァイオリニスト、作曲家である。1794年頃、ジェノヴァを訪れていたポーランドのヴァイオリニスト、ドゥラノフスキの曲芸的な演奏に感銘を受けた少年パガニーニは、これをきっかけに聴衆を引き付ける華麗で想像を絶する技巧を磨いていった。パガニーニは自身で演奏するために作曲をしており、その演奏技術を盗まれないように楽譜を出版することは稀で、死の直前には大半を焼却処分してしまった。現存している楽譜は、彼の演奏を聴いた作曲家らが書き起こしたものがほとんどだと言われている。

この曲のタイトルにある変奏曲とは、まず主題を演奏しその主題のリズム、拍子、旋律、調子、和声などを変えて次々に演奏していく楽曲のことである。この曲は、ヴァイオリンと管弦楽のために作曲され、ヴァイオリンでは一番低い音域のG線だけで演奏される。チェロでは一番高い音域のA線だけで演奏される。1本の弦のみで滑らかに演奏することが求められ、一見地味だが演奏者の技量と表現力が問われる曲である。



© Kirill Bashkirov

## パブロ・フェランデス Pablo Ferrández (cello)

1991年スペインのマドリード生まれ。3歳でスペイン国立管弦楽団のチェリストを務める父と音楽教師の母から音楽を学び、わずか13歳でマドリードのソフィア王妃高等音楽院への入学が認められ、ナターリヤ・シャホフスカヤに師事する。現在は、ドイツのクロンベルク・アカデミーでフランス・ヘルメルソンの下、研鑽を積む。2008年オーストリア、リーツェン国際コンクール優勝を機に頭角を現し、2013年にはパウロ国際チェロ・コンクール準優勝、2015年チャイコフスキー国際コンクール入賞など数々の賞を受賞している。2014年には、若き才能の発掘や起用にも定評があるONYXからCDデビュー。弦楽器雑誌「ザ・ストラド」では、チェリストとして確固たる地位と才能を示していると好評を得た。

スペインのオーケストラはもとより、クレメラータ・バルティカ、フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団、サンクトペテルブルク交響楽団、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団などと共演している。また、室内楽奏者としてギドン・クレーメルやクリスティアン・テツラフなどと共演。ヴェルピエ、カザルス、エヴィアン、サントリーニ、スピヴァコフ、ピアティゴルスキー等数々の音楽祭に出演するなど着実に実績を上げている。これまでに、パウ・カザルス財団やマドリードで若い音楽家を支援しているフベントゥデス・ムシカレス・デ・マドリードから支援を受けている。

2014年1月より日本音楽財団保有ストラディヴァリウス1696年製チェロ「ロード・アイレスフォード」を使用している。





© E. SHINOHARA

## 鳥羽 亜矢子 Ayako Toba (piano)

東京藝術大学音楽学部を経て、インディアナ大学パーフォーマー・ディプロマ及びアーティスト・ディプロマコースにて研鑽を積む。渡米後、巨匠ヤーノシュ・シュタルケル氏のアシスタントピアニストを務めた他、インディアナ大学より推薦され、ケネディーセンター・テラスシアター（ワシントンD.C.）でのミレニウムコンサート等、多数出演。2005年同大学にて、ヤーノシュ・シュタルケル、ミリアム・フリード両特別教授クラスの非常勤伴奏講師（専属クラスピアニスト）を兼任。

2006年帰国。以降、室内楽演奏会、リサイタル、CD録音、NHK-FM等での共演、コンクール、オーディション等の伴奏、ザルツブルク・モーツァルテウム夏期国際音楽アカデミー、ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール、オホーツク紋別音楽セミナー弦楽器部門等の公式ピアニストを務めている。これまでに、ポール・ピス、五嶋龍、アラン・ムニエ、堤剛、マーク・コッペイ、宮田大、各氏のリサイタルでの共演、オレグ・クリサ、ピエール・アモイヤル、フェデリコ・アゴスティーニ各氏のクラスピアニストを務めている。現在、東京藝術大学音楽学部弦楽科及び指揮科非常勤講師（演奏研究員）を務める。

# 日本音楽財団

NIPPON MUSIC FOUNDATION

## ストラディヴァリウス1696年製チェロ 「ロード・アイレスフォード」 Stradivarius 1696 Cello “Lord Aylesford”

演奏家なら誰でも一度は手にしたいと憧れるストラディヴァリウスは、今からおよそ300年前のイタリア・クレモナで作られた。当時、教会音楽や宮廷音楽が盛んであったため、弦楽器の需要や重要性はますます高まっていた。多くの弦楽器製作者がいる中でアントニオ・ストラディヴァリ（1644～1737）の技術は群を抜いて秀でていた。ヴァイオリンを理想的な形に完成させ、彼の楽器は音色もさることながら見た目の美しさも加味され、瞬く間に人気を博した。その人気は現代も衰えることなく弦楽器の最高峰とされている。ストラ



Photo by S. Yokoyama

ディヴァリは94歳の最晩年まで製作を続け、約1,100挺の楽器を製作したといわれている。そのうち、現存するヴァイオリンは約600～700挺といわれており、チェロは約50挺のみである。

この「ロード・アイレスフォード」は、イギリスのアマチュア奏者アイレスフォード卿が1780年代に購入し、その後、同家が約100年間所有していたことから、この名前が付けられた。1946年にはアメリカの世界的に著名なチェロ奏者グレゴール・ピアティゴルスキーの手に渡り、1950年から1965年には巨匠ヤーノシュ・シュタルケルによって愛用された。2003年から日本音楽財団が保有している。

日本音楽財団は、ストラディヴァリウス製ヴァイオリン14挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン2挺（計20挺）を保有し、次世代に継承するための管理者として保全にも努めながら国籍を問わず一流の演奏家や若手有望演奏家に無償で貸与している。また、楽器貸与者による演奏会を実施している。

## 「ロード・アイレスフォード」について About “Lord Aylesford”

パブロ・フェランデス  
Pablo Ferrández

現在、日本音楽財団が保有する美しいストラディヴァリウス1696年製「ロード・アイレスフォード」を演奏させて頂いています。ストラディヴァリウスを演奏することは、私の生涯の夢であり、私の生活を一変させました。毎朝、楽器ケースを開けるたびにこの神聖な楽器を弾く幸運に恵まれていることを実感し、感動のあまり震えずにはいられないのです。その豊かであたたかい音色は、この世のものとは思えません。コンサートホールでは金色に光り輝く魔法のように響き渡り、全ての聴衆を魅了します。弾くほどに素晴らしさを増し、私達は最強のチームになりつつあります。私は、この楽器が今日までに作られた中で最も優れたチェロであると確信しています。いつまでも熱く語り続けられるほど、すっかりこのチェロの虜です。

今夜のプログラムは、私のお気に入りの中から選りすぐりの曲で構成しました。皆様のために演奏させて頂くことで、感謝の気持ちをお伝え出来れば幸いです。

I am playing a beautiful Stradivarius, Lord Aylesford, one of the precious instruments owned by Nippon Music Foundation. It has been my lifetime dream to play a Stradivarius, and this cello has completely changed my life. Every morning I open the case and can't help but feel "goose bumps" to know that I have the chance to play this almost sacred instrument. His rich warm sound is out of this world; it resonates like golden magic in the concert hall and it doesn't leave anyone indifferent. It keeps getting better and better and we are becoming a great great team. I strongly believe that this is the best cello ever made. I am deeply in love with the cello and could be talking day and night how passionate I feel about it.

The program I chose is composed of some of my very favourite pieces. It is a great honour for me to be able to play for the audience tonight to express my appreciation.

主 催：(公財) ひょうご子どもと家庭福祉団  
(社福) ひょうご障害祉事業協会  
後 援：三田市  
三田市教育委員会  
三田市音楽協会  
特別協力：日本音楽財団  
協 力：日本財団